

# 看護という仕事が好き。 だから看護師になったんです。

今回、伊藤隼也は聖隷浜松病院（浜松市）を訪問。同連載としては初めてとなる男性看護師、福井諭さん取材、少しずつ増えてきたとはいえ、まだまだ少ない男性看護師の現状について話を伺ってきました。

## Profile

ふくい さとる  
福井 諭さん

青森県立保健大学健康科学部看護学科卒。北里大学病院脳神経外科病棟を経て、平成21年に聖隷浜松病院に入職。平成19年に結婚、現在は2歳と0歳になる子どもの父親でもある。現在、同病院では初めてとなる男性看護師の育休を申請中。



思ったのは、みんな目的があって学んでいるところですね。当時、男同士でよく集まってお酒を飲んだりしていたのですが、そういうときも、決まっていた将来の話になるんです。「こんな看護師になりたい」「こういう看護をしたい」と。

伊藤 仲間意識、連帯感が育っていったわけですね。

福井 そうですね。大学でも男性が圧倒的に少なかったのは事実ですが、そうやっていつも仲間と一緒にいたので、疎外感はありませんでした。

伊藤 逆に、男性だからできる、あるいは福井さんだからできる看護について考えたりした？

福井 しましたね。

伊藤 具体的に教えてくれますか。  
福井 小児科に実習に行ったときのことですが、小児科には長期に渡って入院している子が多く、周りが女性だけという状況のなかにずっといるので、なかには男性との接し方がうまくいかない子たちもいて……。

伊藤 そういう状況だからこそ、福井さんのような看護師が必要ということですね。

福井 はい。お兄さんの存在、みたいなものでしょうか。そういう場面を経験し、看護における男性の存在の意義みたいなことを考えましたね。違う

立場で子どもと接することって大切なんだなと、思いました。

看護職に男性がつくことで  
患者の選択肢が広がる

伊藤 厚生労働省の報告（平成20年保健・衛生行政業務報告）によると、看護師における男性の割合は、年々、増えていますが、それでも平成20年で5.1%と少ないですね。実際に看護師として働いてみてどうですか？

福井 大病院では30人中10人が男性看護師で、男性だけの勤務ということもあったので、男性は少ないという感じはしませんでしたね。

伊藤 女性の看護師と男性看護師とでは、仕事のやり方などで違う面はありますか？

福井 変わりませんね。世の中的にはそうなのかもしれませんが、僕は「男力仕事」と思われるのがあまり好きじゃないんです。男性、女性という分け方ではなく、僕ができる看護とは何か、いつも考えています。

伊藤 患者さんは、どんな反応を見せることが多い？ 例えば医師でも「女性の医師に診てもらいたい」という患者さんも出てきていますよね。  
福井 現場では、ほとんど「男性だけ



vol.21  
聖隷浜松病院  
病棟

福井さんの受け持つ病棟は循環器。この日は準夜勤。その準備を行う。

高校の体験をきっかけに  
看護師の道へ

伊藤 福井さんは看護師になって何年ですか？

福井 看護師になって6年。聖隷浜松病院に入職して2年になります。

伊藤 なぜ、看護師になろうと？

福井 高校2年生のときに、近所の病院で1日看護体験があり、それに参加したんです。看護師に付いて寝たきりのおじいさんやおばあさんを看させていただいたのですが、それが衝撃的で、僕は両親が共働きということもあり、おばちゃん子なので、そのときに自分の祖母が倒れたときは、僕が看てあげなければと思いました。

伊藤 17歳でそんなことを考えるなんて、すごいですね。男性が看護師になるということについて、あまり疑問を感じなかった？

福井 そのときは深く考えず、単純に「看護という仕事って楽しそう、やってみたいなあ」とって（笑）。それで、青森県内にある看護大学に入りました。

伊藤 大学に男性は何人ぐらいいましたか？  
福井 よく分かりませんが、1割ぐらいでしょうか。看護大学っていいなと

看護への情熱の強さに  
男女差は存在しない。  
個人としてどう看護をするか。  
むしろそれに尽きる。



子が育つその一瞬を大切に  
時間を共有したい。  
福井さんがそう話すことに  
僕はとても共感を覚える。



担当する患者さんに寄り添って、体調をうかがう。

伊藤 もともと子どもが生まれたら育休を取るつもりだったんですか？  
福井 大学病院にいたときに、育休を取った男性看護師の先輩がいて、彼から「いい経験をした」という話を聞いていたので、機会があれば取りたいと思っていました。この看護部はワークライフバランスをとっても大切にしているの、子どもを育てながら働いている女性の看護師さんも多いんです。今回、僕が育休を取るということで、みんな後押ししてくれます。

### 看護に対する価値観が子どもが生まれて変わった

伊藤 今度、育休を取るそうなんです。  
福井 はい。今、申請中です。どうやらこの病院で男性看護師では初めてのようです。

転載 二次使用禁止

まあって。そのときは僕が代わってケアをしました。やっぱり男性と女性、両方の看護師がいて、患者さんの選択肢が広がる、それがいいことなんだと思います。  
伊藤 自分を遠ざけられることが、ストレスになったりしませんか？ 一般的にはまだ看護職は女性の仕事というイメージがありますから。  
福井 やっぱりそれは多少あります。でも、自分のやっている看護は間違っていない、これが正しいと思ってやっていることなので、自信を持って「僕は看護師です」って言えます。

### 看護師として高い志を持つ 聖隷浜松の看護理念に共感

伊藤 浜松に来た理由は、子どものためと聞いていますが。  
福井 前は都内に家族3人で住んでいたのですが、もう1人子どもが授かったときに、このまま都内にいるより、実家がある地域に戻ったほうが良かったろうということになりました。  
伊藤 聖隷浜松病院に決めた理由はなんだったんでしょう。  
福井 この看護理念と、(勝原裕美子)看護部長の言葉に共感したからです。理念は、「私たちは利用してくだ

さる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ」なんです。看護をまっとうするためには、自分の仕事に対して誇りや高い志を持たなければならぬと、改めて気付かされました。それから「自分の感じるままに看護をしてほしい」という看護部長の言葉にも、感銘を受けました。  
伊藤 この看護部は、常に新しいものを取り入れて、看護師一人ひとりの意見を尊重するところだと聞いています。そうした自主性を重んじるところが、福井さんには合っていたわけですね。男性看護師は大学病院と比べてどうですか？  
福井 少ないですね。僕のいる病棟に看護師が40名いて、そのうち男性は2、3人ですから。ただ、ICUや救急にはもっといます。

もう一人男性看護師と医師とパチリ。



伊藤 一般病棟を選んだ理由は？  
福井 その人の生活や気持ちに添える看護をしていきたいと思ったからです。その病棟では初めての男性看護師だったようで、初めは職場の女性も違和感を覚えていたみたいです。  
伊藤 病棟で何人かの看護師さんから

話を聞いたときに、そのようなこと言っていました。でも、今はまったく普通みたいですね。そういえば、そのとき福井さんの看護は「熱い」とも「男性」という感じがしない」とも話していました(笑)。その一方で、「夜間、安心」という声もありました。  
福井 そうですか(笑)。  
伊藤 大学病院からここに来て、変わったことはありますか？  
福井 世界観、看護観がすごく広がりました。とくに違うなって思ったのは、

伊藤 子どもが生まれると、すごく変わりますよね。  
福井 確かに看護に対する価値観が変わりました。今までは患者さんの立場に共感しようとする気持ちが強かったんですが、今は「自分が親だったら」と思いながら看ます。先日、乳がんの化学療法をしていた20代後半の女性が、「子どもに会いたい」という気持ちを抑え、面会を断っていて。そんなときの母親の気持ちを考えると、ものすごく胸が苦しくなりました。  
伊藤 そういう気持ちに、性別は関係ないと思はれる。世の中には「イクメン」という言葉が流行っているけれど、「育児のために父親が休む」という単純なことではなく、子どもと関わることの本質的なところをしっかりと考えるべき。だから福井さんの今の話に、僕はそのすごく共感しますね。  
福井 現実的な話で言えば、妻の役に立ちたいという気持ちも強いですが、自分自身も子どもと接する時間を増やしたいですね。

### 看護は女性の仕事ではなく もっと男性も増えて欲しい

伊藤 最後になりますが、福井さんにとって看護って何ですか？



伊藤隼也 (いとうしゅんや)  
写真家・医療ジャーナリスト  
医療情報研究所代表  
患者中心の医療を実現するため医療ジャーナリストとしてテレビや雑誌などのメディアで活動中  
ホームページ shunya-ito.tv

福井 ひとことと言うと……「好きな仕事」でしょうか。だから看護師になっただけです。  
伊藤 一人の看護師としてどんな看護をしていきたいというふうな、ビジョンはありますか？ あるいは要望があったら教えてください。  
福井 自分が生きてきた経験、妻がいて、子どもがいて、という環境で培った自分なりの価値観から生まれる看護を、患者さんに提供していきたいと思っています。あとは、看護は女性の仕事ということもないので、もっと男性看護師が増えてほしいですね。  
伊藤 看護も、女性中心だった時代から少しずつ変わってきて、人間として多様なものが求められる時代になってきていると思うし、福井さんと話していると、ジェンダーとかセックスにとらわれない看護の本質のようなものが感じられる。いい話をありがとうございます。